

旭川水辺空間再生の取り組みについて

The Asahi River Waterfront Restoration Project

河川・海岸グループ 研究員 酒井 宏
 生態系グループ 研究員 阿部 充
 企画グループ グループ長 柏木 才助
 水循環・まちづくりグループ グループ長 坂之井和之
 主席研究員 岡田 智幸

岡山県岡山市中心部を貫流する旭川は、鳥城として知られる岡山城と日本三名園のひとつである岡山後楽園の間を流れ、美しい景観、歴史・文化を感じられる貴重な空間である。JR 岡山駅から約 2km と中心市街地から近く、周辺には博物館や美術館等の文化施設も集積しているが回遊性が十分でないことから日常的にはにぎわいに乏しいことが課題となっている。

そこで、河川管理者である国土交通省岡山河川事務所や岡山市をはじめとする各関係機関の連携により、治水上の整備と合わせて、水辺へのアクセス性の向上、水辺の魅力を生かしたにぎわいの拠点創出、歴史・文化を踏まえた景観への配慮と保全等、魅力ある旭川の水辺空間再生に向けた取り組みが平成 26 年度から進められている。

本稿では、旭川の水辺空間再生の取り組みとして、平成 27 年度に実施された「岡山市中心部における旭川水辺空間再生に向けた戦略会議」および「ミズベリング岡山旭川」等について報告する。

キーワード：かわまちづくり、旭川、官民連携、ミズベリング、歴史、文化

The Asahi River that runs through the central city of Okayama, Okayama prefecture flows between Okayama castle knowns as raven castle and Korakuen, one of the famous 3 parks in Japan and provides valuable space for beautiful scenery, history and culture. The area is located near downtown city, about 2 km from JR Okayama station, with natural history museum and art museum nearby, but the issue there is that there is not a regular flow of people coming and going regularly.

Therefore, by collaboration between river manager, MLIT's Okayama river manager's office and Okayama City and other government offices, projects were advanced in the interest of creating better access to waterfronts, locations that incorporate waterfront feel, considering historical and cultural perspectives into scenery and its preservation, attractive Asahi River's restoration by incorporating waterfront spaces since 2014.

This paper reports "Strategic Conference in the interest of Asahi River Waterfront Restoration in the center of Okayama City" and "Mizbering Okayama Asahi River" and others.

Keywords: community development integrating rivers, the Asahi River, private and public collaboration, Mizbering, history, culture

1. はじめに

わが国では、戦後の復興期や高度経済成長期を経て河川環境の悪化が進み、人々の暮らしや街並みは水辺から遠ざかり、水辺のにぎわいは急速に失われてきた。しかし、昭和40年代以降から進められた下水道整備や水質規制などの施策により、水質や親水性は徐々に回復してきた。このような河川環境の改善に合わせて、近年の「かわまちづくり支援制度」の創設、「河川敷地占用許可準則」を緩和する改定などにとともない、水辺のもつ魅力やスペースの活用に対する社会的な注目が高まりつつある。

岡山県岡山市中心部を流れる旭川周辺は、日本三名園のひとつである岡山後楽園や岡山城をはじめ、岡山県立美術館、岡山県立博物館などの文化施設が集積しており、岡山の歴史、文化、芸術に触れられるエリアとなっている。しかし、これらを繋ぐ、回遊性が十分でないことや水辺の持つ魅力を活かしきれていないことから、日常的なにぎわいに乏しいことが課題となっている。

岡山市では、市が進める「中心市街地活性化パッケージ」のうち、回遊性の向上と魅力づくりに向けた取り組みとして、「一集う・憩う・楽しむ水辺—旭川再生！」（平成26年11月13日）と題する旭川を中心としたにぎわいの拠点づくりに関する取り組みを、国土交通省岡山河川事務所とともに行っている。

本稿は、平成27年度に実施された取り組み内容およびその結果を取りまとめたものである。

2. 背景

2-1 岡山市

岡山県岡山市は、近畿と九州を結ぶ東西軸と、山陰と四国を結ぶ南北軸の結節点に位置し、鉄道・道路・空路などの交通網が集中する中枢拠点都市である。

江戸時代には、岡山藩池田氏の城下町として栄え、旭川の水を引き込んだ回遊式庭園で日本三名園の一つである岡山後楽園が築かれた。

平成19年1月22日には、建部町・瀬戸町との合併により、人口約70万人（平成28年3月時点706,728人）、面積789.92km²となり、平成21年4月1日には、政令指定都市に移行している。

2-2 旭川と岡山城・岡山後楽園の歴史

旭川は、岡山県の中央部に位置し、その源を真庭市蒜山（ひるぜん）の朝鍋鷲ヶ山（あさなべわしがせん）に発し、途中、百間川を分派した後、岡山市の中心部を流れ児島湾に注ぐ流域面積1,810km²、幹川流路延長

142kmの一級河川である。

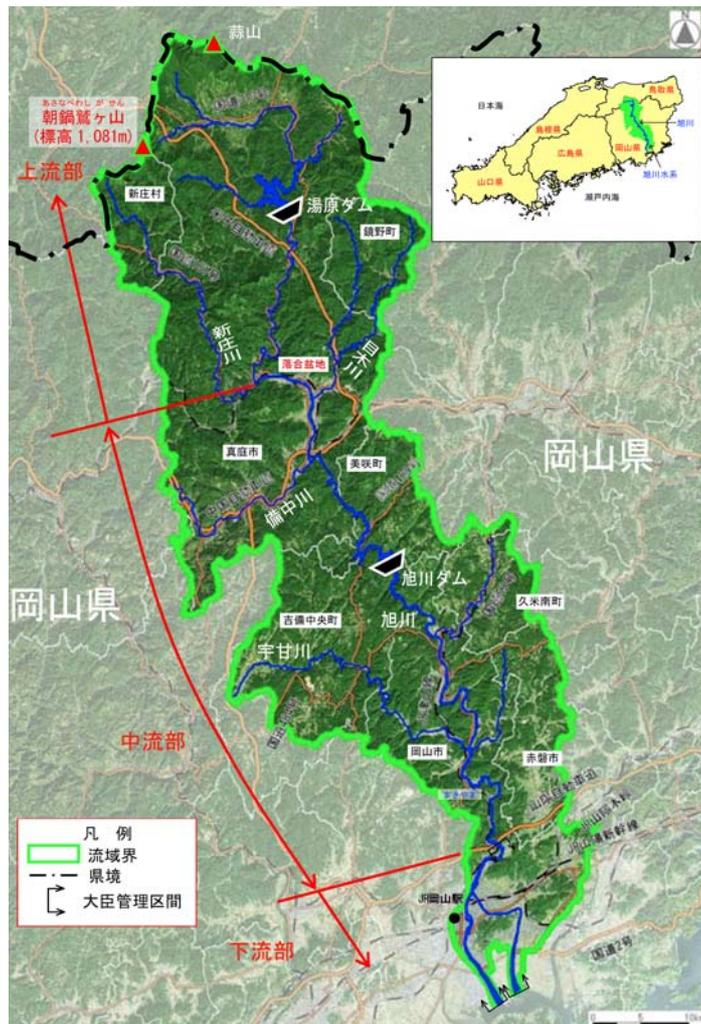


図-1 旭川流域図

(国土交通省河川局 旭川水系の流域及び河川の概要)

旭川の治水の歴史は、岡山城・岡山後楽園を含む市街地形成とは密接な関係にある。旭川が岡山市街地を貫流する現在の姿になったのは、文禄3年（1594）宇喜多秀家が岡山城の天守閣を現在地に築くにあたり、堀の役割を備えるため、城地の近辺を流れる幾重もの旭川の分流のうち、一本を活かしながら堤防を築いて現在の流れに本流を固定したと考えられている。⁴⁾しかし、旭川に沿って城と城下町が形成されたため、岡山城下は幾度となく洪水に見舞われることとなった。

江戸時代に移り、池田家が岡山を統治するようになると、岡山藩の郡代（ぐんだい）である津田永忠によって水害防御と新田開発を目的に、旭川の放水路として百間川が造成された。百間川の概成により城下町への洪水被害が軽減されたことを受け、岡山後楽園の築庭が進められ、1700年に完成した。以降、300年以上たった現在でも、岡山城、岡山後楽園、旭川によって

形成される景観は、岡山の顔として、市民や観光客に親しまれる憩いの空間となっている。



写真－1 岡山城・岡山後楽園周辺の旭川

2-3 旭川の活用

岡山における旭川の活用の歴史は古く、室町時代末期から大正にかけて、高瀬舟による舟運が行われていた。旭川上流（勝山）から河口を結ぶ重要な物流および交通網として利用され、中出石、京橋周辺では、河岸として、魚市、青果市、納涼市などが開かれており、人々の営みの重要な拠点としてにぎわいを見せていた。しかし、明治以降、鉄道の開通や洪水の影響により、物流および交通の中心が川から陸路に移行したことで、次第に旭川の活用は衰退し、日常における旭川との関わりも薄れていった。近年は、岡山市の市政施行100周年（1989年）を記念して、地元の方々を中心にボランティア組織で運営される月に一度の「京橋朝市」や、旭川さくらみちに植えられた桜並木の開花時期に開催される「岡山さくらカーニバル」、水面の活用では、毎年、継続的に開催される「岡山城・岡山後楽園カヌー駅伝大会」や「旭川遠泳」等のイベントの場としての旭川の活用が多く見られる。



写真－2 京橋朝市の様子

2-4 旭川の水辺空間再生の課題と解決策

岡山市および国土交通省岡山河川事務所では、岡山市中心部を流れる旭川について、以下の3点を課題としてあげている。

- 治水) 中心市街地の治水安全度が低い
- 利用) 市街地から近いが利用者は少ない
水辺へのアクセスが不便
- 景観) 岡山後楽園・岡山城周辺の景観への配慮と保全



写真－3 中心市街地における旭川の無堤区間

これらの解決策として、平成10年、23年の洪水被害や、近年の激甚化する降雨等に鑑み、水害に強い安全なまちづくりを進めると共に、「後楽園・岡山城周辺における水辺の回遊性や親水性の確保、憩い・にぎわいの空間創出により、歴史・文化や景観・環境を都市部に居ながら身近に味わえる魅力あるエリアづくり」（一集う・憩う・楽しむ水辺－旭川再生！：岡山市・岡山河川事務所 平成26年11月13日）を将来目標として、取り組みを進めている。具体的な取り組み内容は、図－2に示す。

この取り組みの実施には、利用者である市民やNPO等の参画を促し、官民協働で進めて行くことが重要となる。

また、取り組みの具体化に向けては、各関係機関が連携を図り、かわづくりとまちづくりを一体的に捉え、計画実施していくことが、旭川および周辺施設における魅力や回遊性を相乗的に高めるために必要であると考えられる。



図-2 旭川エリアにおける取り組み内容

(岡山市、国土交通省岡山河川事務所：

一集う・憩う・楽しむ水辺ー「旭川再生！」)

3. 旭川再生の取り組み内容

3-1 旭川水辺再生戦略会議

岡山市中心部における旭川水辺空間再生に向けた戦略会議(略称:旭川水辺再生戦略会議)は、地域の経済界や大学、関係行政機関が連携して、旭川の水辺の利活用や岡山後楽園、岡山城周辺を中心としたまちづくり、それらと連携した旭川全体にわたるかわづくり等について意見交換を行い、今後の河川整備やまちづくりに資する旭川の水辺再生戦略を検討するため、平成27年5月に発足した。委員は、岡山市長、岡山商工会議所会頭、岡山大学副学長、岡山県土木部長、岡山河川事務所事務所の5名で構成される。



写真-4 旭川水辺再生戦略会議

(左:現地視察、右:会議状況)

平成27年度の旭川水辺再生戦略会議は、2回開催され、以下の内容が合意された。

(1) 第1回旭川水辺再生戦略会議 (H27.5.28)

- 旭川の現状と課題が確認され、国・県・市・経済界・大学が一体となって旭川の水辺空間再生に向けて取り組む枠組の発足。
- 図-3に示す、5つの項目を踏まえて、市民との連携・協働を図りながら旭川の水辺空間再生の取り組みを進める「旭川水辺空間再生の方向性」の合意。
- 市民・NPO等との連携・協働を働きかけるきっかけとなる水辺に関するイベント(ミズベリング岡山旭川)の開催(平成27年10月31日開催)。

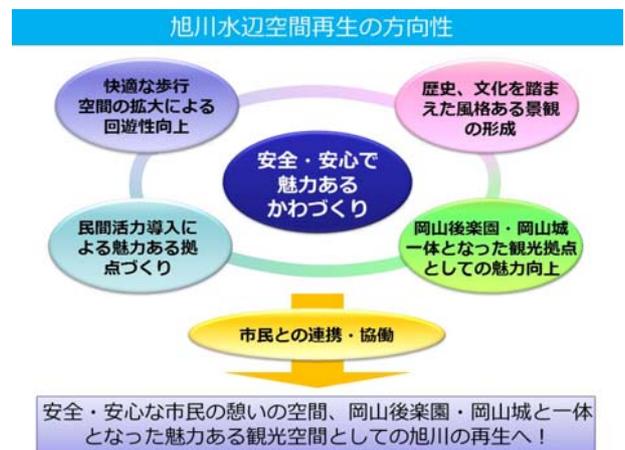


図-3 旭川水辺空間再生の方向性

(第1回旭川水辺再生戦略会議資料)

(2) 第2回旭川水辺再生戦略会議 (H28.1.20)

- 平成28年度以降のミズベリング等のにぎわい創出イベントの継続開催。
- アンケート調査から「旭川周辺における水辺空間の活用の視点」の抽出

- 美しい景観の保全と活用
 - 旭川さくらみちの桜並木の保全
 - 豊かな自然や美しい景観を活かした取り組み
- 回遊性の向上
 - 連続性(階段、スロープ)、歩行性(散策路、水辺の回廊)の改善
 - 休憩場所の設置(ベンチ等)
 - 散策・ランニングコース、植物・生物・歴史等の案内・説明
- 日常のにぎわい創出
 - 訪れた人が集い、とどまれる空間(カフェ等)
- 継続的な情報の発信
 - ミズベリング岡山旭川の開催

図-4 旭川周辺における水辺空間の活用の視点

(第2回旭川水辺再生戦略会議資料)



写真-5 岡山城・岡山後楽園周辺の風景 (左: 旭川さくらみちの桜並木の保全状況、右: 岡山城を望む旭川の景色)



写真-6 水辺へのアクセス状況 (左: 急勾配の階段、右: スロープから続く歩行性の低い回遊路)

- ・ 市民・NPO等と連携・協働して、岡山城・岡山後楽園周辺のにぎわいの拠点づくりを概ね平成31年度までに集中的に取り組むこと。(旭川水辺再生戦略)

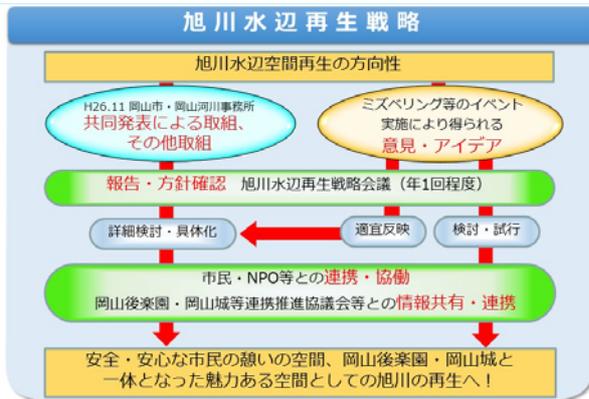


図-5 旭川水辺再生戦略 (第2回旭川水辺再生戦略会議資料)

その他の重要な意見として、市民や観光客が様々な体験ができるような魅力づくりも重要であること、旭川は大都市の中心を流れる清流であるとともに、特徴的な重要種の生息も含めて、生物多様性の宝庫であり、魅力としてPRしていく必要があることなどがあげられた。

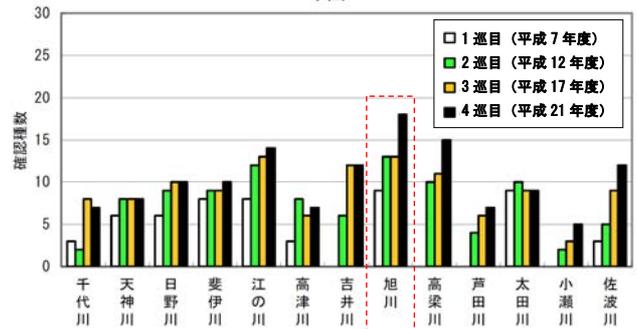


図-6 河川別絶滅危惧等の確認種数の経年比較[魚類]河川環境データベース(河川水辺の国勢調査)(国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課)

3-2 ミズベリング岡山旭川

ミズベリング岡山旭川は、市民や岡山への来訪者が、岡山城・岡山後楽園周辺を流れる旭川に親しみながら、「かわづくり」と「まちづくり」について一緒に考えることを目的として開催され、表-1に示す各種のイベントが実施された。

イベントの計画、運営は、「産、学、官、NPO、市民団体」(岡山市、岡山大学、岡山商工会議所、岡山県、岡山河川事務所、NPO法人ENNOVA OKAYAMA、岡山カヌークラブ、岡山市公園協会、おかやま観光コンベンション協会)からなるミズベリング岡山旭川実行委員会が組織され、協働で実施された。

表-1 開催イベントおよび参加者数

開催イベント	参加者数
桜の植樹・オープニングイベント	100名程度
旭川かわまちウォーク	77名
カヌー体験	42名
ワークショップ	59名
石山公園イベント	1000名程度

開催日:平成27年10月31日(土)

開催場所:岡山城・岡山後楽園周辺の旭川



図-7 ミズベリング岡山旭川イベントマップ



写真-7 ミズベリング岡山旭川開催状況

ワークショップは、廃校を活用して地域のコミュニティの場を再生する活動（ハイコーチャレンジ）を実施中の旧内山下小学校で開催された。岡山市内外から応募による 59 名が参加し、9 グループに分かれて、「集う・憩う・楽しむためのアイデア」を共通テーマとして、旭川と岡山城・岡山後楽園周辺のかわづくり・まちづくりについて、245 の意見やアイデアが創出された。



写真-8 ワークショップの様子

ワークショップにおける意見・アイデアの一例

- ・ 大きな桃のバルーンを旭川に浮かべる
- ・ 音楽イベント
- ・ 緩やかなスロープ、階段
- ・ 水辺の回廊（高水敷）の歩行性の改善
- ・ 休憩スペース、ベンチの設置
- ・ オープンカフェ、BAR、水上レストラン
- ・ カヌー、SUP(スタンドアップパドルボート)
- ・ 川遊びのできる水辺
- ・ 屋形船、船上レストラン
- ・ 旭川の写真展
- ・ 水質の改善



写真-9 ワークショップのアイデアの一例

カテゴリー別のアイデアの数は、「イベント」、「回遊性の向上」、に関するアイデアが多く、続いて「飲食、物販、宿泊」、「スポーツ」があげられた。

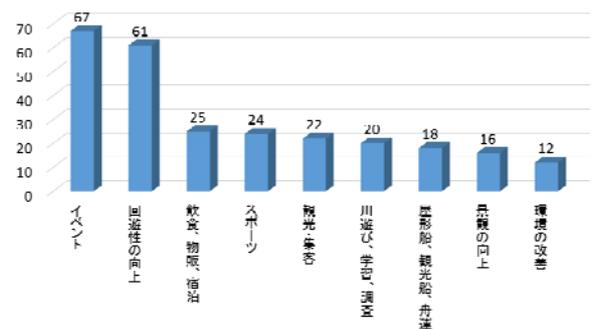


図-8 ワークショップで得られた意見・アイデアの数

3-3 アンケート調査

アンケート調査は、「岡山市中心部における旭川水辺空間再生」の実現に向けて、市民等から岡山城・岡山後楽園周辺の旭川の水辺空間における利用状況、印象、見所等を調査し、「旭川を中心としたにぎわいの拠点づくり」の検討に資することを目的に実施された。以下に調査内容を示す。

対象者

ミズベリング岡山旭川を訪れる岡山市民並びに観光客を含む岡山市内外からの来訪者

調査日時

平成 27 年 10 月 31 日（土）各イベントの開催時間

調査場所

各イベント会場

調査方法

- ① ワークショップ、旭川かわまちウォーク
イベント開始時にアンケート票を配布、イベント終了後に回収

② 石山公園イベント

石山公園に訪れた方を対象に、調査員が協力を呼びかけアンケート調査を実施

③ カヌー体験

カヌー体験終了後に、調査員が協力を呼びかけアンケート調査を実施

回答数

140 票

調査項目

【属性に関する質問】

- Q1. ミズベリング岡山旭川への参加イベント
- Q2. 回答者の居住地
- Q3. 回答者の性別
- Q4. 回答者の年齢

【岡山城・岡山後楽園周辺の旭川に関する質問】

- Q5. 河川空間の利用頻度
- Q6. 主な利用目的
- Q7. 主な交通手段
- Q8. 旭川の印象
- Q9. 旭川の見所、良いところ
- Q10. 回遊性向上とにぎわいづくりのためのアイデア

【ミズベリング岡山旭川に関する質問】

- Q11. ワークショップのアイデアの中で必要、魅力的だと感じるアイデア
- Q12. ミズベリング岡山旭川の取り組みに対する自由意見

主な調査結果

岡山城・岡山後楽園周辺の河川空間の利用頻度は、回答者の半数以上が年に数回（53%）であり、日常的な利用は多くない。また、主な利用目的は、「お祭り・イベント」「散策」が各 1/3 の割合を占めている。

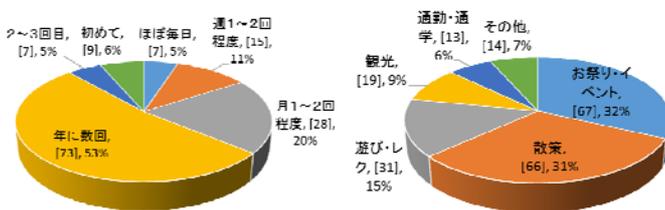


図-9 「河川空間の利用頻度」および「主な利用目的」の回答

旭川の印象については、良い印象として、豊かな自然、美しい景観、歩きたくなる、歴史・文化などが多くあげられた。また、悪い印象としては、回遊性が悪い、にぎわい（日常）がない、景観への配慮が多くあげられた。これらの回答から、歴史・文化を踏まえた景観への配慮、回遊性の向上、日常のにぎわいづくり

（魅力の向上）が重要であることが確認できた。

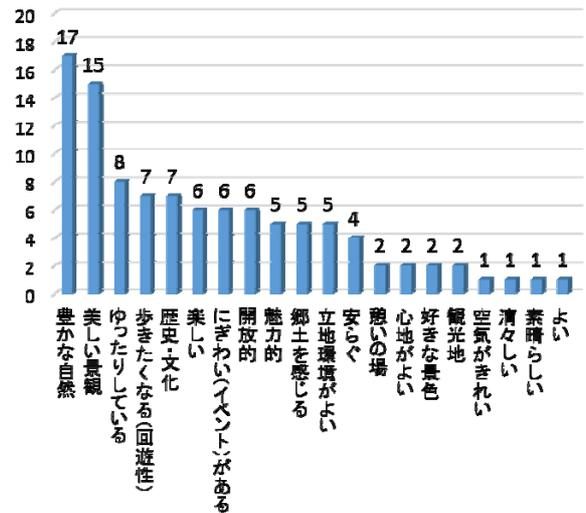


図-10 旭川の良い印象
(第2回旭川水辺再生戦略会議資料)

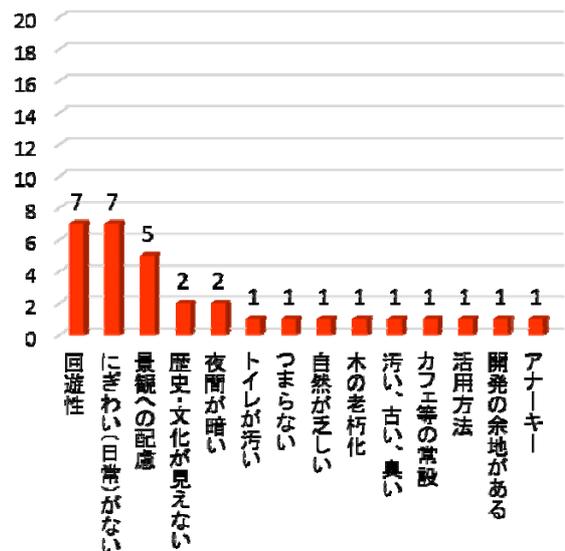


図-11 旭川の悪い印象
(第2回旭川水辺再生戦略会議資料)

最後に、ミズベリング岡山旭川の取り組みに対する自由意見では、継続の希望等の賛成意見が約8割となり、残り約2割についてもイベント周知の拡大等の改善意見であり、今後の継続開催が期待されていることが把握できた。

4. おわりに

ミズベリング岡山旭川のワークショップにおいて創出されたアイデアおよびアンケート結果から旭川水辺再生の取り組みについて、歴史・文化を踏まえた景観への配慮と保全、回遊性の向上、日常的に訪れたくな

るための魅力づくりが重要であることが裏付けされた。

また、旭川水辺再生戦略会議の発足により、市民・NPO等との連携・協働を図ることが旭川水辺空間再生の方向性および旭川水辺再生戦略として示され、ミズベリング岡山旭川の継続開催とともに、平成28年度の取り組みとして、市民参画を促すための水辺に関するイベントの公募を行うことが決定された。今後も各関係機関が連携を図り、かわづくりとまちづくりを一体と捉えて旭川水辺再生の取り組みを継続的に進めて行くことが重要であると考えられる。

最後に、本稿は、平成27年度に実施した「旭川水辺利用推進検討業務」において検討した内容を取りまとめたものである。本報告の作成にあたって、ご指導・ご助言をいただいた国土交通省岡山河川事務所の関係各位に対して深く感謝を申し上げます。

<参考文献>

- 1) 国土交通省岡山河川事務所：第1回岡山市中心部における旭川水辺空間再生に向けた戦略会議資料 (2015. 5. 28)
- 2) 国土交通省岡山河川事務所：第2回岡山市中心部における旭川水辺空間再生に向けた戦略会議資料 (2016. 1. 21)
- 3) 国土交通省岡山河川事務所ホームページ：旭川の歴史・文化（テーマ別）河川交通（舟運）の歴史
- 4) 国土交通省岡山河川事務所：百間川小史 (2015. 4 改訂第六版)
- 5) 岡山市、国土交通省岡山河川事務所：一集う・憩う・楽しむ水辺－「旭川再生！」(2015. 11. 13)
- 6) 国土交通省水管理・国土保全局 河川環境課：河川水辺の国勢調査1～4巡目調査結果総括検討〔河川版〕（生物調査〔魚類・底生動物〕編）(2012. 3)
- 7) 国土交通省河川局：旭川水系の流域及び河川の概要（案）(2007. 10. 3)